

学会発表等の一覧

瀬能 宏 (Hiroshi Senou)

1980～1989 年度

- 上野紘一・瀬能 宏・金 益秀. 1980. 韓国産ドジョウ亜科魚類の染色体. 昭和 55 年度日本水産学会秋期大会.
- 鈴木寿之・道津喜衛・瀬能 宏. 1981. 八重山列島の陸水性魚類. 昭和 56 年度日本魚類学会年会.
- 瀬能 宏・北村利幸. 1981 (November 15). 加茂川(下津町)の感潮域に出現する魚類について. 南紀生物同好会昭和 56 年度秋季研究発表大会. 南部高等学校, 南部町.
- 鈴木寿之・瀬能 宏. 1983. 八重山列島で採集されたハゼ科サツキハゼ属 5 種について. 昭和 58 年度日本魚類学会年会.
- 木下 泉・瀬能 宏. 1985. ボラ科稚魚の識別. 昭和 60 年度日本水産学会秋期大会.
- 瀬能 宏・吉野哲夫. 1986. 日本産ボラ科魚類の分類とその諸問題. 昭和 61 年度日本魚類学会年会.
- 瀬能 宏・吉野哲夫・沖山宗雄. 1987. 日本産セスジボラに適用すべき学名について. 昭和 62 年度日本魚類学会年会.
- 瀬能 宏・望月賢二・沖山宗雄. 1987. ボラ科魚類の顎歯について. 昭和 62 年度日本魚類学会年会.
- 瀬能 宏・沖山宗雄. 1988. ボラ科魚類の地理的分布について. 昭和 63 年度日本魚類学会年会.
- 瀬能 宏・沖山宗雄. 1989. ボラ科魚類の系統類縁関係. 平成元年度日本魚類学会年会.

1990～1999 年度

- 瀬能 宏・沖山宗雄. 1990. ペルシャ湾から採集されたボラ科魚類の 1 未記載種. 平成 2 年度日本魚類学会年会.
- 中坊徹次・瀬能 宏・藍澤正宏. 1991. 沖縄県西表島より採集されたネズップ科イトヒキヌメリ属の 1 未記載種. 平成 3 年度日本魚類学会年会.
- 鈴木寿之・瀬能 宏. 1992 (April 5). 八重山諸島の陸水性魚類相. 1992 年度日本生物地理学会第 47 回年次大会.
- 岩槻幸雄・木村清志・吉野哲夫・瀬能 宏. 1994. 日本産クロサギ科魚類の分類学的再検討. 1994 年度日本魚類学会年会.
- 尼岡邦夫・瀬能 宏・小野篤司. 1994. ダルマガレイ科 *Asterorhombus fijiensis* の西部太平洋からの初記録とルアーとしての背鰭第 1 軟条の役割. 1994 年度日本魚類学会年会.
- 瀬能 宏. 1995 (September 26). プロのエゴとアマチュアの理想～新和名提唱にあたっての提言～. 1995 年度日本魚類学会シンポジウム: 魚名に関する諸問題(京都大学).
- 瀬能 宏. 1996 (October 2-3). 魚類の水中写真の博物館における資料的価値と研究への応用例. 1996 年度日本魚類学会年会(北海道大学水産学部)
- 鈴木寿之・瀬能 宏. 1997 (October 10-14). 日本とインドネシアから採集されたインドカエルウオ属の 1 未記載種. 1997 年度日本魚類学会年会(横須賀市自然博物館)
- 瀬能 宏. 1997 (October 26). 水中写真を使った博物館を中心とするネットワーク作りと魚類研究への応用. シンポジウム: 魚類の研究—研究者とダイバーの狭間にあるもの—.(横須賀市自然博物館)

瀬能 宏. 1998 (September 21). 自然史博物館における魚類の映像資料の収集・保管とその応用. 1998 年度日本魚類学会シンポジウム: 魚類標本・資料の収集と管理—生物多様性研究の要をいかに構築するか—. (高知大学)

吉野哲夫・吉郷英範・瀬能 宏. 1999 (October 9). 西表島から採集されたシマイサキ科ヨコシマイサキ属の 1 未記載種. 1999 年度日本魚類学会年会. (九州大学)

鈴木寿之・瀬能 宏. 1999 (October 9). 南日本から採集されたハゼ科ベニハゼ属の 6 未記載種および 1 日本初記録種. 1999 年度日本魚類学会年会. (九州大学)

2000 年度

松浦啓一・瀬能 宏・篠原現人. 2000 (May 20-21). 日本産魚類データベース. 日本動物分類学会第 36 回大会 (国立科学博物館分館)

松浦啓一・瀬能 宏・篠原現人. 2000 (August 18). 魚類写真資料データベース. 総研大画像データベースワークショップ. (湘南国際村センター)

鈴木寿之・瀬能 宏. 2000 (October 7-8). 西表島から採集されたハゼ科ベニハゼ属の 2 未記載種. 2000 年度日本魚類学会年会. (神奈川県立生命の星・地球博物館)

瀬能 宏. 2000 (October 9). 標準和名とは. 2000 年度日本魚類学会シンポジウム: 魚の和名を考える—差別的名称をどうするか—. (神奈川県立生命の星・地球博物館)

佐藤陽一・瀬能 宏. 2000 (October 9). 学会への提言—標準和名提唱・変更の際のガイドライン—. 2000 年度日本魚類学会シンポジウム: 魚の和名を考える—差別的名称をどうするか—. (神奈川県立生命の星・地球博物館)

瀬能 宏. 2000 (October 9). 標準和名提唱・変更の際のガイドライン(案). 2000 年度日本魚類学会シンポジウム: 魚の和名を考える—差別的名称をどうするか—. (神奈川県立生命の星・地球博物館)

松浦啓一・瀬能 宏・篠原現人. 2000 (October 14). 魚類画像データベース. Pages 33-39 in 自然史学会連合第 6 回シンポジウム: 博物学とインターネット デスクトップでナチュラルヒストリー 21 世紀の自然史科学における画像データベース. (国立科学博物館分館)

Matsuura, Keiichi & Hiroshi Senou. 2001 (January 13). Fish database in Japan with special reference to fish-image database and its role in biodiversity study. Species 2000 Asia Oceania Forum: Taxonomy Initiatives for Biodiversity Conservation in an IT Era. (国立科学博物館分館)

瀬能 宏・松浦啓一. 2001 (February 15). 魚類写真資料データベースの構築とその利用に関する諸問題. 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム: 生物学と映像の現状と未来—その 2—. (東京大学海洋研究所)

山上高生・瀬能 宏・細谷和海. 2001 (March 17). 和歌山県串本の沿岸魚類相—水中写真を活用した魚類の生物地理学的研究—. 第 32 回魚類自然史研究会. (大阪教育大学柏原キャンパス)

2001 年度

瀬能 宏. 2001 (November 23). 相模湾産魚類のデータベース化—魚類水中映像の収集状況と今後の展開. 第 1 回相模湾生物ネットワークシンポジウム. (東京大学理学部附属三崎臨海実験所)

瀬能 宏. 2002 (March 21). 南足柄市で発見された正体不明のメダカの影響予測. 神奈川県立生命の星・地球博物館開館 7 周年記念公開シンポジウム: 蝕まれるかながわの生物—生物多様性を脅かす移入種問題を考える—. (神奈川県立生命の星・地球博物館ミュージアムシアター)

2002 年度

瀬能 宏・上林大介. 2002 (October 12). 日本産カスリハゼ属(スズキ目ハゼ科)の分類学的検討. 2002 年度日本魚類学会年会(信州大学松本キャンパス)

松浦啓一・林 洋平・瀬能 宏・相良 毅・志村純子. 2002 (October 12). 統合型魚類データベースを目指して. 2002 年度日本魚類学会年会(信州大学松本キャンパス)

桜井智史・瀬能 宏・朝比奈 潔. 2002 (December 22). 相模湾における沿岸性魚類の生物地理学的研究. 第 6 回海洋生物研究集会(江ノ島水族館)

高橋正樹・瀬能 宏・朝比奈 潔. 2002 (December 22). 琉球列島伊江島の沿岸魚類相: 水中写真を活用した魚類の生物地理学的研究. 第 6 回海洋生物研究集会(江ノ島水族館)

松浦啓一・瀬能 宏. 2003 (January 11). 日本に魚は何種いるのか: 既知種と未知種をめぐる問題. 日本分類学会連合シンポジウム 2003: 日本の生物多様性はどこまでわかっているか: 既知の生物と未知の生物(国立科学博物館分館)

瀬能 宏. 2003 (February 16). 方言をしゃべるメダカたち: 遺伝子を守る意味とは. シンポジウム酒匂川水辺の生き物たちの未来を考える(神奈川県立生命の星・地球博物館ミュージアムシアター)

2003 年度

Senou, Hiroshi & Keiichi Matsuura. 2003 (October 8). Fish image database developed by a joint force of general public and ichthyologists. Symposium on Roles of Natural History Museum and Biodiversity Database in Japan. The Union of Japanese Societies for Natural History (Epochal Tsukuba, Convention Hall 200). Joint International Forum on Biodiversity Information: Building Capacity in Asia Oceania.

松浦啓一・今村 央・遠藤広光・萩原清司・中坊徹次・木村清志・波戸岡清峰・瀬能 宏・佐藤陽一・篠原現人. 2003 (October 11). 日本の魚類標本に関する横断データベース構築. 2003 年度日本魚類学会年会(京都大学)

神前悠治・馬淵浩司・瀬能 宏・増田元保・西田 睦. 2003 (October 12). アカネキンチャクダイは雑種か?: 分子分析によるアプローチ. 2003 年度日本魚類学会年会(京都大学)

瀬能 宏. 2004 (January 10). 多様性保全か有効利用か—ブラックバス問題の解決を阻むものとは? — 日本分類学会連合第 3 回シンポジウム: 移入種と生物多様性の攪乱(国立科学博物館分館)

2004 年度

瀬能 宏. 2004 (April 25). 黒潮流域における沿岸性魚類の生物地理学的研究. 相模湾海洋生物研究会総会(横須賀市博物館)

馬淵浩司・瀬能 宏・鈴木寿之・西田 睦. 2004 (August 4-6). 琵琶湖からの“古代”コイの発見: ミトコンドリア DNA 解析に基づく系統学的証拠. 第 6 回日本進化学会東京大会(東京大学駒場キャンパス)

高橋鉄美・大塚泰介・矢部 衛・遠藤広光・篠原現人・瀬能 宏・林 洋平・松浦啓一. 2004 (September 25). 統計的手法を用いた計数形質および質的形質による魚類の種同定. 2004 年度日本魚類学会年会(琉球大学)

瀬能 宏. 2004 (September 25). 黒潮流域における沿岸魚類の生物地理—西村仮説の検証. 2004 年度日本魚類学会年会(琉球大学)

瀬能 宏. 2005 (February 12). 自然科学のデータは合意形成に役立つのか. ミニシンポジウム「ブラックバス問題の現状と問題解決をめぐる」。日本環境学会・日本科学者会議公害環境問題研究委員会。(文京シビックセンター)

2005 年度

Mabuchi, Koji, Hiroshi Senou, Toshiyuki Suzuki and Mutsumi Nishida. 2005 (May 16-17). Discovery of an ancient lineage of *Cyprinus carpio* from Lake Biwa, central Japan, based on mtDNA sequence data, with reference to possible multiple origins of koi. (7th Indo-Pacific Fish Conference, Howard International House Taipei, Taipei)

瀬能 宏. 2005 (June 18). 標準和名の安定化に向けて—基本的考え方と最近の動向. 関西菌類談話会第 424 回例会: 菌類セミナー「きのこの標準和名を考える」(京大会館)

瀬能 宏. 2005 (June 25). 外来生物法下のオオクチバス防除と今後の展望. 日本魚類学会公開シンポジウム「外来魚防除の最前線—オオクチバスの駆除技術の現状と課題」(秋田大学)

瀬能 宏. 2005 (August 4). 外来生物法はブラックバス問題を解決できるのか? IMC9 企画, 外来種問題公開フォーラム「日本と諸外国における外来種問題とその対策」.(札幌コンベンションセンター)

松浦啓一・瀬能 宏. 2005 (September 23). 日本周辺に分布するイソハゼ属の 1 未記載種, アカイソハゼ. 2005 年度日本魚類学会年会(東北大学)

瀬能 宏. 2005 (September 24). 黒潮流域における沿岸魚類の生物地理: ミクロネシアの魚類相との関連. 2005 年度日本魚類学会年会(東北大学)

加納光樹・吉田剛司・井上 隆・瀬能 宏・細谷和海・多紀保彦. 2005 (September 23-24). 諸外国の法令で輸入が禁止されている侵略的外来魚. 2005 年度日本魚類学会年会(東北大学)

2006 年度

瀬能 宏. 2006 (June 3). これであなたも分類屋? できるだけ効率よく学名と命名法の知識を得るために. 神奈川県立生命の星・地球博物館・化石研究会共催, 公開シンポジウム「生き物を分類するってどんなこと? ~分類学を知っていますか~」(神奈川県立生命の星・地球博物館)

瀬能 宏. 2006 (July 16). 標準和名の安定化に向けて: 基本的考え方と最近の動向. シンポジウム「トンボの和名をどう考えるか」. 2006 年度日本蜻蛉学会(北海道教育大学釧路校)

村瀬敦宣・内野啓道・瀬能 宏. 2006 (October 8-9). 小笠原諸島から得られたイソギンポ科の 1 種 *Cirrisalarias bunares*. 2006 年度日本魚類学会年会(静岡県コンベンションツアーセンター グランシップ)

渋川浩一・鈴木寿之・瀬能 宏. 2006 (October 8-9). 砂色ハゼの多様性: 日本産ヒメハゼ属・シラヌイハゼ属の分類学的再検討. 2006 年度日本魚類学会年会(静岡県コンベンションツアーセンター グランシップ)

瀬能 宏. 2006 (October 8). 西部太平洋から得られた *Guentherus* 属(シャチブリ目シャチブリ科)の 1 未記載種. 2006 年度日本魚類学会年会(静岡県コンベンションツアーセンター グランシップ)

馬淵浩司・瀬能 宏・西田 睦. 2006 (October 8-9). ミトコンドリア DNA 解析により明らかとなったコイの移入系統. 2006 年度日本魚類学会年会(静岡県コンベンションツアーセンター グランシップ)

2007 年度

松浦啓一・瀬能 宏. 2007 (October 6-7). 八丈島(伊豆諸島)から採集された水玉模様を持つモンガラカワハギ科の 1 未記載種. 2007 年度日本魚類学会年会. 北海道大学学術交流会館.

目黒昌利・瀬能 宏・鈴木廣志・原崎 森・本村浩之. 2007 (October 6-7). 八丈島から得られたヘビギンポ科ヘビギンポ属の 1 未記載種. 2007 年度日本魚類学会年会. 北海道大学学術交流会館.

内野啓道・瀬能 宏. 2007 (October 6-7). *Feia dabra* 種群(ハゼ科コナユキハゼ属)の分類学的再検討. 2007 年度日本魚類学会年会. 北海道大学学術交流会館.

馬淵浩司・瀬能 宏・西田 睦. 2007 (October 6-7). 日本在来コイの核ゲノムマーカーによる識別. 2007 年度日本魚類学会年会. 北海道大学学術交流会館.

松浦啓一・瀬能 宏. 2007 (December 10). 画像と標本のデータベースに基づく日本産魚類の動物地理学的研究. GBIF ワークショップ 21 世紀の生物多様性研究 生物多様性インフォマティクスを創出する 2. 国立科学博物館新宿分館.

Matsuura, K. and H. Senou. 2008 (March 3). Zoogeographical role of the Kuroshio Current: Transportation system and barrier for coastal fishes of southern Japan. Commemoration of the 130th Anniversary of the National Museum of Nature and Science: International Symposium on Systematics and Diversity of Fishes. National Museum of Nature and Science, Ueno, Tokyo.

瀬能 宏. 2008 (March 8). 標準和名をめぐる諸問題—安定普及のために何が必要か? 日本鞘翅学会 2008 年度第 1 回例会. 国立科学博物館新宿分館.

2008 年度

Matsuura, K. and H. Senou. 2008 (May 21-25). Hidden barrier in the sea: a zoogeographical role of the Kuroshio Current for coastal fishes of southern Japan. IOC/WESTPAC, 7th International Scientific Symposium, The Pacific Sutera Hotel, Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia.

渋川浩一・鈴木寿之・瀬能 宏. 2008 (September 21). “*Lophogobius bleekeri*”とは何か. 2008 年度日本魚類学会年会. 愛媛大学.

馬淵浩司・瀬能 宏・武島弘彦・中井克樹・西田 睦. 2008 (September 22). 琵琶湖におけるコイの日本在来 mtDNA ハプロタイプの分布. 2008 年度日本魚類学会年会. 愛媛大学.

渋川浩一・鈴木寿之・瀬能 宏. 2008 (September 21-22). オドリハゼ属の分類学的再検討. 2008 年度日本魚類学会年会. 愛媛大学.

本村浩之・桜井 雄・瀬能 宏・篠原現人・萩原清司. 2008 (September 21-22). 日本初記録のフサカサゴ科魚類 5 種. 2008 年度日本魚類学会年会. 愛媛大学.

Matsuura, K. and H. Senou (松浦啓一・瀬能宏). 2009 (January 21). GBIF and biodiversity databases as scientific research resources: A case study in zoogeography of fishes in the Warm Kuroshio Current (研究資源としての GBIF 及び生物多様性データベース: 魚類データベースが解明する黒潮の役割). アジア地域生物多様性保全のための情報整備と人づくりに向けた国際シンポジウム. 国連大学ウ・タント国際会議場.

瀬能 宏. 2009 (February 21). メダカからみた北川の湿地の重要性. 三浦・三戸自然環境保全連絡会主催, 公開シンポジウム: 首都圏の奇跡の谷戸, 三浦市三戸「北川」の湿地を残したい! 横浜弁護士会館.

高桑正敏・荻部治紀・瀬能 宏. 2009 (March 2). 神奈川県最大・最良の湿地が埋め立ての危機! 神奈川県昆虫談話会 2009 年度第 2 回例会. パシフィコ横浜.

瀬能 宏. 2009 (March 20). メダカからみた北川の湿地の重要性. 三浦・三戸自然環境保全連絡会主催, 公開シンポジウム: 首都圏の奇跡の谷戸, 三浦市三戸「北川」の湿地を残したい! 潮風アリーナ.

2009 年度

瀬能 宏. 2009 (April 26). メダカからみた北川の湿地の重要性. 第 24 回相模湾海洋生物研究会研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館.

瀬能 宏・馬淵浩司・西田 睦. 2009 (October 10). シーボルトとビュルゲル収集の日本産コイの標本. 2009 年度日本魚類学会年会. 東京海洋大学品川キャンパス.

波戸岡清峰・瀬能 宏. 2009 (October 10-11). 小笠原諸島から採集されたウツボ科ウツボ属魚類の 1 未記載種. 2009 年

度日本魚類学会年会. 東京海洋大学品川キャンパス.

渡井幹雄・森田康弘・瀬能 宏. 2009 (October 10-11). *Stegastes insularis* (スズメダイ科クロソラスズメダイ属) の分布に関する新知見. 2009 年度日本魚類学会年会. 東京海洋大学品川キャンパス.

瀬能 宏. 2009 (October 12). 国内外来種とは何か? 2009 年度日本魚類学会市民公開シンポジウム: 国内外来魚問題の現状と課題. 東京海洋大学品川キャンパス.

瀬能 宏. 2009 (November 15). 標準和名に求められるものとは何か? 公開シンポジウム: 昆虫の和名について考える. 日本鞘翅学会第 22 回大会・日本昆虫学会関東支部第 46 回大会合同大会. 東京農業大学厚木キャンパス.

瀬能 宏. 2009 (December 8). 市民参加による画像データベースの構築と学術研究への応用, そして課題. 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム: 水族館における水生生物研究と教育, 現状と展望. 東京大学海洋研究所.

瀬能 宏. 2009 (December 14). 市民参加による魚類画像データベースの構築と学術研究への応用, そして課題. GBIF ワークショップ 21 世紀の生物多様性研究 (通算第 4 回), 生物分布情報から探る生物多様性—観察情報の集積とその利用—. 国立科学博物館日本館 2F 講堂.

2010 年度

瀬能 宏. 2010 (July 17). 魚類のレッドリスト—何が問題か? 平成 21 (2010) 年度日本魚類学会市民公開講座: レッドリストと生物多様性の危機: 魚を絶滅させないためのリストづくり. 名城大学天白キャンパス.

朝井俊亘・安永道平・瀬能 宏・細谷和海. 2010 (September 24). メダカ南北集団間に見られた形態的差異. 2010 年度日本魚類学会年会. 三重県文化会館.

瀬能 宏. 2010 (September 26). 画像データベースを利用した黒潮流域の沿岸魚類相の比較. 2010 年度日本魚類学会シンポジウム. 黒潮と日本の魚類相: ベルトコンベヤーか障壁か. 三重県文化会館.

2011 年度

馬淵浩司・Hayeun Song・武島弘彦・中井克樹・瀬能 宏・西田 睦. 2011 (September 30 to October 1). マイクロサテライト隣接領域の一塩基多型を用いたコイの在来系統の識別. 2011 年度日本魚類学会年会. 弘前大学文京町キャンパス.

竹内直子・瀬能 宏・青木優和. 2011 (September 30 to October 1). 静岡県下田市大浦湾のアマモ場および砂底地における魚類相の変化: 36 年前との比較. 2011 年度日本魚類学会年会. 弘前大学文京町キャンパス.

朝井俊亘・瀬能 宏・細谷和海. 2011 (September 30). 南日本集団琉球型のメダカに見られた形態的特異性. 2011 年度日本魚類学会年会. 弘前大学文京町キャンパス.

2012 年度

Asai, T., H. Senou and K. Hosoya. 2012 (July 3-8). Japanese 'medaka' should be classified into two species! 14th European Congress of Ichthyology. Liège, Belgium.

Mabuchi, K., H. Song, H. Takeshima, K. Nakai, H. Senou and M. Nishida. 2012 (July 10). Lake Biwa as a refuge of native Japanese common carp. ASLO Aquatic Science Meeting. Biwako Hall Foyer. Otsu.

井本会美・瀬能 宏・遠藤広光・増田元保・田中文也・岩槻幸雄. 2012 (September 22). D-loop 領域からみた日本産アカメの遺伝的集団構造. 2012 年度日本魚類学会年会. 水産大学校キャンパス.

朝井俊亘・金 治弘・瀬能 宏・細谷和海. 2012 (September 22). メダカ東韓集団の形態学的特徴. 2012 年度日本魚類学会年会. 水産大学校キャンパス.

2013 年度

Shibukawa, K., T. Suzuki and H. Senou. 2013 (June 24). Diversity of sand or sandy mud dwelling gobiine genera in brackish estuaries and adjacent areas in southern Japan. 9th Indo-Pacific Fish Conference. Okinawa Convention Center, Okinawa.

宮崎佑介・中江雅典・瀬能 宏. 2013 (October 4-5). 北上川水系磐井川の 3 支流における潜在的な魚類の種プールと魚類相. 2013 年度日本魚類学会年会. 宮崎観光ホテル.

馬淵浩司・ソン ヨハン・武島弘彦・中井克樹・瀬能 宏・西田 睦. 2013 (October 4). 日本在来コイのレフュージアとしての琵琶湖. 2013 年度日本魚類学会年会. 宮崎観光ホテル.

Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, J. Honda, J. Yamaide and H. Senou. 2014 (February 12-13). Biological monitoring by general citizens via the Internet atlas of fishes and its bulletin board system. Asian Fish Biodiversity Conference 2014. Gurney Resort Hotel & Residences, Penang.

宮崎佑介・村瀬敦宣・椎名雅人・直江憲一・中城亮祐・本多順一・山出潤一郎・瀬能 宏. 2014 (Mar. 16). インターネットコミュニティーの外来魚類モニタリング機能. 日本生態学会第 61 回全国大会. 広島国際会議場.

2014 年度

Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou. 2014 (July 12). Citizen participation in augmenting a museum's database enhances fish monitoring and public awareness. IPMEN 2014 (5th International Pacific Marine Educators Network Meeting). Suzuki Zenko Hall, Rakusui Kaikan, Tokyo University of Marine Science and Technology, Shinagawa.

Miyazaki, Y., A. Murase, M. Shiina, K. Naoe, R. Nakashiro, J. Honda, J. Yamaide and H. Senou. 2014 (August 15). The monitoring functions of an internet community for non-native fish invasions and introductions. The 3rd International Marine Conservation Congress. Glasgow, Scotland.

瀬能 宏. 2014 (September 19). 自然史標本と博物館. 日本学術会議公開シンポジウム: 人類の財産を失わないために今なすべきこと. 日本学術会議講堂, 東京.

Nakae, M., Y. Miyazaki, H. Senou and K. Matsuura. 2014 (October 23). FishPix: Image database of fishes developed by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History and the National Museum of Nature and Science in Japan. Pacific Neighbourhood Consortium 2014. Museum computing: an approach to bridging cultures, communities and science. National Palace Museum, Taipei.

宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2014 (November 15-16). 外来魚類の再検証可能な情報集積場としての自然史博物館の役割. 2014 年度日本魚類学会年会. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

宮崎佑介・瀬能 宏. 2014 (November 17). 止まらないブラックバスの違法放流. 2014 年度日本魚類学会年会シンポジウム: 日本の外来魚問題の現状を考える: 外来生物法制定から 10 年で何が変わったのか? 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

瀬能 宏. 2014 (November 29). 黒潮流域における沿岸魚類の生物地理. 公開シンポジウム: 黒潮と南日本の魚たち: 黒潮はバルトコンベヤーか障壁か? 高知大学朝倉キャンパス, メディアの森, 高知.

瀬能 宏. 2014 (December 6). 魚類写真資料データベース: 市民との協働で築かれた研究ツールとその応用. 第 46 回種生物学学会シンポジウム: 市民調査～フィールド生物学と市民参加型科学の接点, その持続可能性を探る. 富士 Calm, 富士吉田市.

瀬能 宏. 2015 (January 10). 国立自然史博物館に何を望むのか: 地方博物館からの視点. 日本分類学会連合主催公開シンポジウム: 国立自然史博物館の設立を望む. 国立科学博物館大講堂, 上野.

Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou. 2015 (February 11-12). A natural history museum as a platform for a accumulating verifiable information on non-native fishes: a Japanese example. Citizen Science 2015 Conference, Citizen Science Association. San Jose, CA.

Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou. 2015 (February 15). Integrating and utilizing citizen biodiversity data on the web for science: an example. The 2015 AAAS Annual Meeting. San Jose, CA.

渥美圭佑・馬淵浩司・瀬能 宏・井上広滋. 2015 (March 19). 隠れた外来種問題: コイの日本在来系統と導入系統の形態比較. 第 62 回日本生態学会大会. 鹿児島大学, 鹿児島.

清野聡子・竹内直子・瀬能 宏. 2015 (March 30). 対馬における海洋保護区設定にむけた協働型基礎調査①魚類相(予報). 平成 27 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学品川キャンパス, 東京.

2015 年度

鈴木寿之・渋川浩一・瀬能 宏. 2015 (July 11). ヨシノボリ属のタイプ種 *Rhinogobius similis* は、ヨシノボリではない. ゴリ研究会. 長良川うかいミュージアム四阿, 岐阜市.

Miyazaki, Y., A. MURASE and H. SENOU. 2015 (August 2-6). Integration and application of potential museum collections of natural history disseminated on the web for biodiversity data accumulation and public conservation awareness. ICCB: 27th International Congress for Conservation Biology / 4th European Congress for Conservation Biology, Montpellier, France.

滝川祐子・細谷和海・藤田朝彦・瀬能 宏・中井克樹・吉野哲夫. 2015 (September 5). フランス国立自然史博物館 (MNHN) 所蔵, ステナケルが収集した 1880 年代初頭の琵琶湖産魚類標本. 2015 年度日本魚類学会年会. 近畿大学奈良キャンパス, 奈良.

藤田朝彦・滝川祐子・細谷和海・瀬能 宏・中井克樹・吉野哲夫. 2015 (September 5). ステナケルが採集した琵琶湖産魚類標本の精査. 2015 年度日本魚類学会年会. 近畿大学奈良キャンパス, 奈良.

渥美圭佑・馬淵浩司・瀬能 宏・井上広滋・滝川祐子. 2015 (September 5). 明治 10 年代の琵琶湖のコイ: パリ国立自然史博物館標本に基づく考察. 2015 年度日本魚類学会年会. 近畿大学奈良キャンパス, 奈良.

松浦啓一・瀬能 宏・本村浩之・遠藤広光・栗岩 薫・千葉 悟. 2015 (September 5). 南日本の沿岸性魚類の戦略的調査と魚類データベースが展望する動物地理学の新たな地平. 2015 年度日本魚類学会年会. 近畿大学奈良キャンパス, 奈良.

中江雅典・瀬能 宏. 2015 (September 15). 魚類の生物多様性情報を用いた研究の課題と可能性. 生物・生態系情報の統合と時系列データの解析: 生物や生態系の変化を読み解く. JaLTER 公開シンポジウム 2015. 国立環境研究所大山記念ホール, つくば.

Miyazaki, Y., A. Murase and H. Senou. 2015 (October 1). Integration and application of potential museum collections of natural history disseminated on the Web for biodiversity data accumulation and public conservation awareness. CS-DC'15 World e-Conference (Complex Systems Digital Campus 2015 World e-Conference) in CCS'15 (Conference on Complex Systems 2015), Tempe, USA.

Miyazaki, Y., A. Murase, A. Angulo and H. Senou. 2015 (November 4). Registering photographic records of *Labrisomus jenkinsi* (Heller and Snodgrass, 1903) (Perciformes, Labrisomidae) from Pacific coast of Costa Rica as a museum collection: Implications for significance of fish image database. I Costa Rican Congress and IV Latin American Symposium of Ichthyology. San José, Costa Rica. November 2-5, 2015.

瀬能 宏. 2015 (November 14). 博物館における市民参加型データベースの構築とその成果. 「沖縄に国立自然史博物館を！」実行委員会・日本学術会議(動物科学分科会, 自然史財の保護と活用分科会, 自然史・古生物学分科会, 進化学分科会)主催シンポジウム: 沖縄に国立自然史博物館を!: 次世代の博物館像を求めて. 沖縄県立博物館・美術館講堂, 那覇.

難波真梨子・瀬能 宏・柳下直己. 2015 (November 28). アオギス(キス科キス属)の地域個体群間の形態比較. 第 61 回魚類自然史研究会. 東京環境工科専門学校, 東京.

村瀬敦宣・乾 隆帝・三木涼平・宮崎佑介・小山彰彦・江口勝久・瀬能 宏・岩槻幸雄・神田 猛. 2016 (February 13-14). 宮崎県における河口域魚類相の網羅的解明に向けた基盤整備. 第 27 回魚類生態研究会, 鹿児島大学.

渥美圭佑・馬淵浩司・瀬能 宏・井上広滋. 2016 (March 24). 琵琶湖内にみられるコイの体形の地域間変異. 第 63 回日本生態学会仙台大会. 仙台国際センター, 仙台.

2016 年度

中江雅典・瀬能 宏・萩原清司・本村浩之・横山貞夫・山川 武・篠原現人・松浦啓一. 2016 (June 11-12). 奄美大島および周辺海域の魚類学研究史と浅海性魚類相(予報). 日本動物分類学会第 52 回大会. 北海道大学札幌キャンパス, 札幌.

瀬能 宏. 2016 (June 12). 歴史で語る箱根の魚の四方山話. 2016 年度相模湾海洋生物研究会第 38 回研究発表会. 観音崎自然博物館, 横須賀市.

川間公達・瀬能 宏・本村浩之. 2016 (September 24-25). 日本産イソギンポ科タマカエルウオ属魚類の分類学的研究. 2016 年度日本魚類学会年会. 岐阜大学, 岐阜.

2017 年度

滝川祐子・藤田朝彦・川瀬成吾・瀬能 宏・細谷和海・吉野哲夫. 2017 (June 3). スtockホルム及びパリに現存する標本から見た明治初期の琵琶湖の魚類研究史について. 日本動物分類学会第 53 大会, 海洋研究開発機構横浜研究所, 横浜.

藤原恭司・田代郷国・高山真由美・瀬能 宏・本村浩之. 2017 (June 3). ハタ科イズハナダイ属魚類 *Plectranthias sheni* の日本からの記録と適用すべき標準和名の検討. 日本動物分類学会第 53 大会, 海洋研究開発機構横浜研究所, 横浜.

瀬能 宏. 2017 (June 4). 箕作佳吉に献名された生物. 模湾海洋生物研究会第 40 回研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市.

三木涼平・村瀬敦宣・和田正昭・星野和夫・小枝圭太・本村浩之・瀬能 宏. 2017 (July 22). 東九州沿岸における散発性熱帯種の出現状況. 第 11 回水生生物勉強会, 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター.

村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・本村浩之・瀬能 宏. 2017 (July 22). 南九州海域から得られた絶滅危惧種ハタ科魚類カスリハタとその分布パターン. 第 11 回水生生物勉強会, 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター.

Miki, R., A. Murase, M. Wada, K. Koeda, K. Hoshino, H. Motomura and H. Senou. 2017 (August 23). Tropical marine fish aggregations along the eastern coast of Kyushu, Japan, northwestern Pacific Ocean, with an assessment of influence of the Kuroshio Current. The annual meeting of the Asian Society of Ichthyologists. University of Science, Ho Chi Minh.

Motomura, H. and H. Senou. 2017 (October 2-6). The Osumi Line: a newly recognized major biogeographical boundary line for fishes in southern Japan. 10th Indo-Pacific Fish Conference, Tahiti.

滝川祐子・藤田朝彦・川瀬成吾・瀬能 宏・細谷和海・吉野哲夫. 2017 (September 16-17). Vega 号収集の日本産魚類: 海水魚. 2017 年度日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス, 函館.

藤田朝彦・川瀬成吾・瀬能 宏・細谷和海・吉野哲夫・滝川祐子. 2017 (September 16-17). Vega 号収集の日本産魚類: 淡水魚. 2017 年度日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス, 函館.

川間公達・瀬能 宏・武藤望生・本村浩之. 2017 (September 16-17). イソギンポ科タマカエルウオ属魚類ヤセタマカエルウオ *Alticus orientalis* Tomiyama, 1955 の有効性. 2017 年度日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス, 函

館.

栗岩 薫・吉田朋弘・田代郷国・本村浩之・瀬能 宏. 2017 (September 16-17). 日本最後の秘境 ～ 火山列島(北硫黄島・硫黄島・南硫黄島)の魚類相と生物地理. 2017 年度日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス, 函館.

上城拓也・本村浩之. 2017 (September 16-17). 東シナ海とフィリピンから得られたチョウチョウオ科ゲンロクダイ属の 1 未記載種. 2017 年度日本魚類学会年会, 北海道大学函館キャンパス, 函館.

村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏. 2018 (February 17). 宮崎県北部門川湾の図鑑出版プロジェクトの紹介と特筆すべき魚類相. 第 29 回魚類生態研究会広島大会, 国立江田島青少年交流の家, 広島県江田島市.

三木涼平・村瀬敦宣・和田正昭・小枝圭太・星野和夫・本村浩之・瀬能 宏. 2018 (February 18). 東九州における熱帯性魚類の出現状況と緯度的・季節的差異の検討. 第 29 回魚類生態研究会広島大会, 国立江田島青少年交流の家, 広島県江田島市.

2018 年度

瀬能 宏. 2018 (June 3). 標準和名のルーツ. 相模湾海洋生物研究会第 42 回研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市.

和田英敏・瀬能 宏・宮本 圭・本村浩之. 2018 (June 9). 日本近海から得られたハタ科イズハナダイ属の色彩多型. 日本動物分類学会第 54 回大会. 鹿児島大学郡元キャンパス理学部, 鹿児島.

瀬能 宏. 2018 (August 25). Vega 号が収集した海産魚類標本が示唆する明治初期の沿岸環境. 平成 30 年度京大大学生態学研究センター研究集会: スウェーデン Vega 号採集による日本産標本にもとづく 140 年前の生物多様性復元—琵琶湖, 神戸, 関東, 長崎の水生生物・陸貝を中心に—. 大津市ふれあいプラザ, 大津市.

上城拓也・瀬能 宏・本村浩之. 2018 (October 6-7). 西インド洋モーリシャスとセーシェルから得られたチョウチョウオ科ゲンロクダイ属の 1 未記載種. 2018 年度日本魚類学会年会 (50 周年記念大会). 国立オリンピック記念青少年総合センター, 東京.

村瀬敦宣・三木涼平・緒方悠輝也・和田正昭・瀬能 宏. 2018 (October 23). 魚類多様性から見た門川町の魅力発掘プロジェクトの紹介とその特異的な魚類相. 宮崎大学産学・地域連携センター第 25 回技術・研究発表交流会. 宮崎市民プラザ, 宮崎市.

瀬能 宏・滝川祐子. 2018 (December 2). ヴェガ号収集の日本産魚類標本調査に参加して: 明治初期の海水魚標本が語るもの. 相模湾海洋生物研究会第 43 回研究発表会. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.

村瀬敦宣・三木涼平・瀬能 宏. 2019 (February 17). 宮崎県のさかなのまち門川町の出版とそのコンセプト. 第 30 回魚類生態研究会. 水産大学校, 下関市.

2019 年度

瀬能 宏. 2019 (May 19). 自然史系博物館におけるコレクションポリシー. 相模湾海洋生物研究会第 44 回研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市.

瀬能 宏. 2019 (May 19). 誇れる博物館を目指して: 魚の資料収集と学芸活動の多様な展開. 相模湾海洋生物研究会第 44 回研究発表会. 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀市.

手良村知功・小枝圭太・瀬能 宏・菊池 潔・平瀬祥太郎. 2019 (September 21). DNA バーコーディングを用いた黒潮流域における深海性魚類の多様性. 2019 年度日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知.

片山英里・内野啓道・瀬能 宏. 2019 (September 21-22). 小笠原諸島父島から得られたスナハゼ科スナハゼ属の一種. 2019 年度日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知.

栗岩 薫・中江雅典・瀬能 宏. 2019 (September 22). 霞ヶ浦流入河川恋瀬川および 12 支流における魚類相: 2 年間ひたすらタモ網を振り続けた記録. 2019 年度日本魚類学会年会. 高知大学朝倉キャンパス, 高知.

瀬能 宏・吉野哲夫. 2019 (September 23). Vega 号が収集した海産魚類標本が示唆する明治初期の日本の沿岸環境. 2019 年度日本魚類学会公開シンポジウム: スウェーデンの Vega 号が採集した 140 年前の日本産標本群の意義: 分類学的研究に基づく標本の役割を再考: 過去の生物多様性復元, 今日の環境保全, 未来世代への記録と保存. 高知大学朝倉キャンパス, 高知.

Yamakawa, U., K. Okano, R. Imai, H. Senou, S. Kaneko, Y. Saito, L. K. Faulks, M. Akasaka, K. Kon and Y. Tsuda. 2019 (December 11-12). Genetic structure and dispersal dynamics of the amphidromous sleeper *Eleotris oxycephala* along the Kuroshio Current. BES Annual Meeting 2019, British Ecological Society. Belfast, Northern Ireland.

星野浩一・瀬能 宏. 2020 (February 29 to March 1). ハタ科マハタ属クエの学名. 第 44 回九州海洋生態談話会. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター・延岡フィールド, 延岡.

星野浩一・瀬能 宏. 2020 (March 27-29). クエ(ハタ科マハタ属)に該当する学名. 2020 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学品川キャンパス, 東京. (大会中止; 講演要旨は研究業績とみなす)

2020 年度

Teramura, A., K. Koeda, H. Senou, K. Kikuchi and S. Hirase. 2020 (August 20-21). DNA barcoding of mesopelagic and demersal fish species on the continental shelf and upper slope in Japanese and Taiwanese waters. eDSBS2020, <https://dsbsoc.org/conferences/edsbs/>

手良村知功・小枝圭太・瀬能 宏・菊池 潔・平瀬祥太朗. 2020 (December 22-23). DNA barcoding of mesopelagic and demersal fish species on the continental shelf and upper slope in Japanese and Taiwanese waters. バーチャル研究会: 生物多様性の DNA 情報学—自然の計測と生命の理解のために, オンライン.

手良村知功・小枝圭太・瀬能 宏・菊池 潔・平瀬祥太朗. 2021 (March 28). 日本近海産深海性魚類の DNA バーコーディング. 令和3年度日本水産学会春季大会, オンライン.

2021 年度

和田英敏・瀬能 宏. 2021 (June 6). 相模湾と伊豆諸島八丈島から得られたハタ科イズハナダイ属の 1 未記載種. 日本動物分類学会第 56 回大会. オンライン.

手良村知功・瀬能 宏・菊池 潔・平瀬祥太朗. 2021 (September 18-20). "ギンザメ"(ギンザメ目ギンザメ科)に見られる遺伝的 2 型は隠蔽種か? 2021 年度日本魚類学会年会(ウェブ大会), オンライン.

和田英敏・瀬能 宏・本村浩之. 2021 (September 18-20). 南西太平洋から得られたシロカサゴ科ヤセアカカサゴ属の 2 未記載種. 2021 年度日本魚類学会年会(ウェブ大会), オンライン.

幸 大二郎・中江雅典・本村浩之・瀬能 宏・遠藤広光. 2021 (December 11). 高知県未記録のヨウジウオ科魚類 6 種. 第 113 回土佐生物学会大会, オンライン.